

令和5年度 仙台市宮城野区総合防災訓練参観について

令和5年10月20日

仙台市宮城野障害者福祉センター

今年度の仙台市宮城野区総合防災訓練は、次の想定で行われました。令和5年10月1日(日)午前8:30、三陸沖を震源とするマグニチュードの地震が発生し、中野栄小学校付近において交通、電気、水道等のライフラインが途絶するとともに建物の倒壊、外壁の落下等が発生した。同日8:33、宮城県に大津波警報発表。避難が必要となる津波避難エリア内の住居者等は、津波到達予定時刻の9:10までに、避難エリア外や津波避難施設・場所への緊急一時避難が必要となった状況にあるとの設定でした。

今回の訓練への参観は、宮城野区にあり、福祉避難所として開設する可能性がある宮城野障害者福祉センターとして、実際の被災時にはどのような可能性があるのか、何が必要となるのかを確認すること。また、宮城野センター独自の避難訓練は行ってきておりますが、東北大震災から12年たった今、改めて学ぶ機会として参加してまいりました。

中野栄小学校では、学校へ避難してきた人たちがいち早く校舎内を經由し、屋上まで避難ができるようにと、非常階段3階入り口に外から開けられる非常用のキーボックスを設置したとのことでした。大津波警報が発令し、学校へ先頭で避難して来た人は、躊躇なく鍵を開け、次の人が避難できるようにして欲しいとの説明がありました。

屋上への避難終了後は体育館へ移動し、避難所設備作成、発電機の始動訓練、仮設トイレ設置訓練、非常給水栓設置訓練を、町内会ごとに分かれて実施されました。

特に非常給水栓については、現在中野栄小学校周辺では中野栄小学校以外には設置されておらず、今後福室小学校に設置計画があるとの話がありました。ライフラインがストップした時に、大切な水の確保ができる場所が地域にあることは、避難した方にとって大きな安心材料になると感じました。また、参加された皆さんにとって初めて行う作業である為か、パーテンションの設営などは誰が、どのように組み立てていくのかで苦勞している様子が見られました。日頃より、定期的に設営などを行ってみることや指示を出す人を明確にすることなど、今後宮城野センターで避難訓練を行う上で確認すべきことを学ぶことができました。

防災訓練後の講評では、小学校が行っている防災への取組みとして、中野栄小学校と町内会が協力し、防災マップを作製したこと、子どもたちも防災訓練に参加し、避難所設営等の体験したことは継続した地域防災へつながることと考えること、来年度以降も町内会の役割を変えて同様の防災訓練を実施予定であること、など話がありました。

実際の避難の時には、車いすの方や高齢者の方が高所へ避難する際の難しさなどを感じることもありましたが、その時こそ福祉避難所として、センターがあることの大切さを感じました。

今後も継続して総合防災訓練等に参加し、防災意識を高め、福祉避難所該当者の受け入れがスムーズに行えるよう努めていきたいと思っております。